【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成25年4月4日(2013.4.4)

【公開番号】特開2011-192622(P2011-192622A)
【公開日】平成23年9月29日(2011.9.29)
【年通号数】公開・登録公報2011-039
【出願番号】特願2010-151247(P2010-151247)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｍ　14/00　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　31/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｍ　14/00　Ｐ
Ｈ０１Ｌ　31/04　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成25年2月20日(2013.2.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
Ａｌ、またはステンレス鋼で構成され、膜厚が１５μｍ～１００μｍの範囲内である金属箔である第１金属層と、
前記第１金属層上に形成され、Ｔｉで構成され、かつ、厚みが５００ｎｍ以下である第２金属層と、を有し、
前記第２金属層は、最外層に形成されていることを特徴とする色素増感型太陽電池用導電基材。
【請求項２】
電極としての機能を備えた第１電極基材、および前記第１電極基材上に形成され、色素増感剤が坦持された金属酸化物半導体微粒子を含む多孔質層を有する酸化物半導体電極基板と、少なくとも電極としての機能を備えた第２電極基材を有する対極基板とが、前記多孔質層および前記第２電極基材が対向するように配置されており、前記酸化物半導体電極基板および前記対極基板の間に酸化還元対を含む電解質層が形成されている色素増感型太陽電池であって、
前記第１電極基材または前記第２電極基材のいずれか一方が、Ａｌ、またはステンレス鋼で構成され、膜厚が１５μｍ～１００μｍの範囲内である金属箔である第１金属層と、前記第１金属層上に形成され、Ｔｉで構成され、かつ、厚みが５００ｎｍ以下である第２金属層と、を有し、前記第２金属層は、最外層に形成されている色素増感型太陽電池用導電基材を電極層として有し、
他方が透明性を有する基材であることを特徴とする色素増感型太陽電池。
【請求項３】
前記第１電極基材が前記色素増感型太陽電池用導電基材を電極層として有し、かつ、前記第２電極基材が透明性を有する基材であることを特徴とする請求項２に記載の色素増感型太陽電池。
【請求項４】
電極としての機能を備えた第１電極基材、および前記第１電極基材上に形成され、色素増感剤が坦持された金属酸化物半導体微粒子を含む多孔質層を有する酸化物半導体電極基

板と、少なくとも電極としての機能を備えた第２電極基材を有する対極基板とが、前記多孔質層および前記第２電極基材が対向するように配置され、前記酸化物半導体電極基板および前記対極基板の間に酸化還元対を含む電解質層が形成されており、
前記第１電極基材または前記第２電極基材のいずれか一方が、Ａｌ、またはステンレス鋼で構成され、膜厚が１５μｍ～１００μｍの範囲内である金属箔である第１金属層と、前記第１金属層上に形成され、Ｔｉで構成され、かつ、厚みが５００ｎｍ以下である第２金属層と、を有し、前記第２金属層は、最外層に形成されている色素増感型太陽電池用導電基材を電極層として有し、
他方が透明性を有する基材である色素増感型太陽電池が複数個連結されてなることを特徴とする色素増感型太陽電池モジュール。